

平成13年度厚生科学研究費補助金
健康科学総合研究事業

未成年者の喫煙及び飲酒行動に関連 する環境要因についての研究

平成13(2001)年度研究報告書

主任研究者 鳥取大学医学部衛生学 尾崎米厚

平成14年（2002年）4月

厚生科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）
総括研究報告書

未成年者の喫煙及び飲酒行動に関連する環境要因についての研究

主任研究者 尾崎米厚

（鳥取大学・医学部・衛生学・助教授）

研究要旨

①未成年者の喫煙及び飲酒行動に関連する要因についての分析

2000 年度に実施された全国調査結果を詳細分析することにより、周囲の者の飲酒及び喫煙、生徒の生活習慣などの関連要因を検討した。月喫煙（この 30 日に 1 日でも喫煙した）に関連した要因は、友達の喫煙、喫煙の害がないと思っていること、兄弟姉妹の喫煙、母の喫煙（特に女子）等であった。相対危険度は、男子より女子で、中学より高校で高かった。生活習慣、学校生活の要因もモデルに含めると、上記に加えて、朝食をあまり食べないこと、高校ではさらに、クラブに積極的に参加しないこと、大学などへ進学希望が無いこと等が関連していた。睡眠障害やうつ傾向に関する項目の関連は、強くはなかった。月飲酒の関連要因も、喫煙の関連要因に類似していたが、相対危険度は喫煙のそれにくれべ小さく、男女差が小さく、中高の差（高校で相対危険度がやや高いが）も比較的小さかった。睡眠障害やうつ状態との関連も強くはなかった。1996 年度調査との比較を試みると、相対危険度の大きさやパターンはほとんど同じであった。飲酒の関連要因の関連度合いも、この 96 年と 2000 年度調査の間でほとんど差がなかった。

②1996 年、親子 3 つ組調査の結果分析

1996 年の全国調査と同時期に行っが未発表であった、生徒と父母への同時無記名調査の結果を分析した。生徒の回答による親の飲酒、喫煙状況は親の自己申告によるそれらと一致度がかなり高いこと、喫煙、飲酒とも親の影響を強く受けていること、しかし、親は自分の子だけは喫煙、飲酒をしていないと思っていること等が明らかとなったため、親への教育等を通しての、両親への関心を高める取り組みが急務といえる。

③未成年者の喫煙及び飲酒行動に影響を与える環境要因に関する調査

本年度は、飲酒に関する広告調査のうちテレビ広告の数量的分析を実施した。前年度録画してあった、2000 年の 3 時期それぞれ 1 週間分の東京地区の民放各社における酒 CM の分析を行い、ビール、発泡酒の広告件数が多いこと、8 月初旬は発泡酒の広告件数が多いこと、平均 1 放送局 1 日 23 もの酒広告が流れること、昼過ぎるとすでに広告が流れ始め、夕方から深夜にかけて増加すること等が明らかになった。広告内容ものみやすさの強調、おいしさの強調、価格情報の提供があるものが目立った。

分担研究者	曾根智史（国立公衆衛生院・公衆衛生行政学部・室長）
分担研究者	福島哲仁（福岡大学医学部・公衆衛生学・助教授）
分担研究者	谷畑健生（国立公衆衛生院・疫学部・主任研究官）

A. 研究目的

本研究の目的は、わが国の未成年の喫煙行動や飲酒行動の実態とその関連要因およびそれらに影響を与えている環境要因を明らかにし、未成年者の喫煙対策、飲酒対策を効果的に推進する方策を提言することである。本研究の解析により、現在の未成年者の喫煙行動及び飲酒行動の実態が明らかになり、それらのハイリスクグループを特定でき、さらに関連要因や学校要因を明らかにすることで予防対策についての提言ができる。さらに、未成年者の飲酒及び喫煙行動に影響を与えるものとして特に広告とテレビドラマやコミック誌上での飲酒、喫煙シーンの取り扱いに的を絞り、それらの媒体別の量および内容を分析し、これらがどのように未成年者の飲酒及び喫煙行動に影響を与えているかを検討することを目的とする。本研究により未成年者の喫煙・飲酒行動に影響を及ぼしている社会的要因の問題点が明らかになるため、我が国において、どのような規制等の対策を講じるべきかという政策判断の極めて重要な判断材料を提供することになる。

B. 研究方法

1年目は、2000年度に実施した中高生の喫煙および飲酒行動に関する全国調査のデータの詳細分析を実施する。詳細分析は、青少年の喫煙・飲酒行動の関連要因を明らかにする。諸外国の同様の調査結果と比較し、わが国の青少年の喫煙・飲酒行動に特徴的な関連要因を明らかにし、わが国に特有な対策

を考察する。関連要因の解析方法は、層別解析から始め、多変量解析を実施し、交絡因子を調整する。2年目以降、たばこ酒の広告は、テレビCM（酒のみ）、雑誌広告、新聞広告、交通広告（電車内）、街頭広告（東京の若者が集まる主な6地域）の調査を行う。雑誌や新聞については若者に良く読まれている雑誌（12誌）と主な新聞（4誌）を対象に15年間分全てのページの分析を行い、そこに掲載されていた全ての酒とたばこの広告の量的、質的面上での年次推移を解析するとともに、たばこのテレビCM中止等といった業界の自主規制との関連を見る。交通広告や街頭広告については毎月調査員が調査対象を分析して回る。これらの動向と、1996年度、2000年度の中高生の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査の結果（喫煙や飲酒を経験した年次や喫煙銘柄）との関連を分析する。さらに、青少年によく視聴されているテレビドラマおよび青少年が良く読むコミック誌（業界の自主規制でたばこや酒の広告は掲載されていないもの）上での喫煙飲酒シーンの扱われ方についての分析を実施する。酒やたばこの取り扱われ方を、質的、量的に分析し、青少年の行動への影響を予測する。この分析結果を青少年がよく吸っている銘柄との関連も分析する。

C. 研究結果

1) 未成年者の喫煙及び飲酒行動に関連する要因についての分析

2000年度に実施された全国調査結果を詳細分析することにより、周囲の者の飲酒及び喫煙、生徒の生活習慣などの関連要因を検討した。月喫煙（この30日に1日でも喫煙した）に関連した要因は、友達の喫煙、喫煙の害がないと思っていること、兄弟姉妹の喫煙、母の喫煙（特に女子）等

であった。相対危険度は、男子より女子で、中学より高校で高かった。生活習慣、学校生活の要因もモデルに含めると、上記に加えて、朝食をあまり食べないこと、高校ではさらに、クラブに積極的に参加しないこと、大学などへ進学希望が無いこと等が関連していた。睡眠障害やうつ傾向に関する項目の関連は、強くはなかった。月飲酒の関連要因も、喫煙の関連要因に類似していたが、相対危険度は喫煙のそれにくれべ小さく、男女差が小さく、中高の差（高校で相対危険度がやや高いが）も比較的小さかった。睡眠障害やうつ状態との関連も強くはなかった。1996 年度調査との比較を試みると、相対危険度の大きさやパターンはほとんど同じであった。飲酒の関連要因の関連度合いも、この 96 年と 2000 年度調査の間でほとんど差がなかった。

2) 1996 年、親子 3 つ組調査の結果分析

1996 年の全国調査と同時期に行ったが未発表であった、生徒と父母への同時無記名調査の結果を分析した。生徒の回答による親の飲酒、喫煙状況は親の自己申告によるそれらと一致度がかなり高いこと、喫煙、飲酒とも親の影響を強く受けていること、しかし、親は自分の子だけは喫煙、飲酒をしていないと思っていること等が明らかとなったため、親への教育等を通しての、両親への関心を高める取り組みが急務といえる。

3) 未成年者の喫煙及び飲酒行動に影響を与える環境要因に関する調査

本年度は、飲酒に関する広告調査のうちテレビ広告の数量的分析を実施した。前年度録画してあった、2000 年の 3 時期それぞれ 1 週間分の東京地区の民

放各社における酒 CM の分析を行い、ビール、発泡酒の広告件数が多いこと、8 月初旬は発泡酒の広告件数が多いこと、平均 1 放送局 1 日 23 もの酒広告が流れること、昼過ぎるとすでに広告が流れ始め、夕方から深夜にかけて増加すること等が明らかになった。広告内容ものみやすさの強調、おいしさの強調、価格情報の提供があるものが目立った。

D. 考察

本年度の研究により、わが国の青少年の飲酒及び喫煙行動に関連する要因が明らかになった。また、1996 年の全国調査と 2000 年の全国調査の結果を比較すると、関連する要因、その相対危険度の大きさもほとんど同様であったことは、調査方法論の安定を意味し、また関連要因は短期間のうちにはほとんど動かないことを示唆している。望ましいと思われていないライフスタイルとの関連は、今後の青少年からの生活習慣病予防を考える上でも、興味深い。もちろん、本研究は因果関係を証明したものではないが、健康に望ましくないことは一部の生徒に集中していることを示し、ターゲットグループを意識した取組の必要性を示唆する。また、今回改めて、親の飲酒及び喫煙行動や意識の大切さが浮き彫りにされたため、取組の強化には親の教育を通した、大人も巻き込んだ対策が必須となろう。

E. 結論

青少年の飲酒、喫煙行動に関連する要因はかなり一定しており、2 回の全国調査でも再現性が高かった。特に、周囲の者の飲酒及び喫煙行動などの影響を受けていることが推察された。親の関心の無さも大きな課題である。

酒のCMは分量も多く、放映時間帯も広く青少年
への影響が危惧された。なし

F. 健康危機管理情報

特になし

G. 研究発表

1. 広告の実態に関する研究. 尾崎米厚、谷畑健生、
簗輪真澄、曾根智史、嘉悦明彦、岡本幹三、岸
本拓治. 日本公衆衛生学会誌、48(10 Suppl)、
297, 2001
2. 未成年者の飲酒および喫煙対策に関する総合的
研究. 尾崎米厚. 日本公衆衛生雑誌、48(10 Su
pp1)、133, 2001
3. わが国の青少年の飲酒・喫煙行動と親の飲酒・
喫煙行動との関連. 尾崎米厚、嘉悦明彦、岡本
幹三、岸本拓治、谷畑健生、簗輪真澄. J Epid
emiol, 12(1), 93, 2002

H. 知的財産権の出願・登録状況

厚生科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）
分担研究報告書

2000 年度全国調査における生徒の喫煙及び飲酒行動に関連する要因分析

分担研究者 福島哲仁（福岡大学医学部・公衆衛生学教室・助教授）

研究要旨

2000 年度に実施された、中高生の飲酒及び喫煙行動に関する全国調査のデータを、詳細分析し、青少年の飲酒及び喫煙行動に関連する要因を明らかにした。さらに、その特徴の推移をみるために、1996 年の全国調査のデータも同様の方法で分析し、比較した。

月喫煙（この 30 日に 1 日でも喫煙した）に関連した要因は、友達の喫煙、喫煙の害がないと思っていること、兄弟姉妹の喫煙、母の喫煙（特に女子）等であった。相対危険度は、男子より女子で、中学より高校で高かった。生活習慣、学校生活の要因もモデルに含めると、上記に加えて、朝食をあまり食べないこと、高校ではさらに、クラブに積極的に参加しないこと、大学などへ進学希望が無いこと等が関連していた。睡眠障害やうつ傾向に関する項目の関連は、強くはなかった。月飲酒の関連要因も、喫煙の関連要因に類似していたが、相対危険度は喫煙のそれに比べ小さく、男女差が小さく、中高の差（高校で相対危険度がやや高いが）も比較的小さかった。睡眠障害やうつ状態との関連も強くはなかった。1996 年度調査との比較を試みると、相対危険度の大きさやパターンはほとんど同じであった。飲酒の関連要因の関連度合いも、この 96 年と 2000 年度調査の間でほとんど差がなかった。

本年度の研究により、わが国の青少年の飲酒及び喫煙行動に関連する要因が明らかになった。また、1996 年の全国調査と 2000 年の全国調査の結果を比較すると、関連する要因、その相対危険度の大きさもほとんど同様であったことは、調査方法論の安定を意味し、また関連要因は短期間のうちにはほとんど動かないことを示唆している。望ましいと思われていないライフスタイルとの関連は、今後の青少年からの生活習慣病予防を考える上でも、興味深い。もちろん、本研究は因果関係を証明したものではないが、健康に望ましくないことは一部の生徒に集中していることを示し、ターゲットグループを意識した取組の必要性を示唆する。

A. 研究目的

わが国では、未成年喫煙禁止法および未成年飲酒禁止法が存在するにもかかわらず多く未成年者が既に喫煙者や飲酒者であることはすでに明らかになっている。未成年の喫煙や飲酒を防止するには、学校教育現場の努力等を中心とした、友人からのすしめをいかに断れる子供になるかが重要であるが、未成年者がたばこを吸いやすい環境や飲酒しやすい

環境を改善することも大切である。しかし、わが国では、未成年者の飲酒及び喫煙行動に関する全国調査は、1996 年度と 2000 年度に 2 度行われただけで、しかも調査結果の詳細分析が遅れており、未成年者の飲酒及び喫煙行動に関する要因が十分に検討されていない。本調査では、未成年者の飲酒及び喫煙行動に関連する要因を明らかにし、わが国での未成年者の飲酒及び喫煙防止対策に活用することを目

的とする。

B. 研究方法

2000 年度に実施した中高生の喫煙および飲酒行動に関する全国調査のデータの詳細分析を実施する。詳細分析は、青少年の喫煙・飲酒行動の関連要因を明らかにすることである。

2000 年度調査の関連要因の特徴を明らかにするために、1996 年調査の関連要因分析を同時に実施することにより、この 4 年間のあいだの変化も含めて、分析しようとした。それぞれの全国調査のデータの中で、青少年の飲酒及び喫煙の関連要因と予想される変数について、それぞれの相関を検討し、多重共線性の有無を判定した後、多重ロジスティック回帰分析を行った。分析は、関連要因が性別、年齢別で異なるかもしれないので、男女別、中高別に行った。検討したモデルは変数の強制投入法を採用した。多変量解析は 1996 年では 2 つのモデル（モデル A、B）で、2000 年調査では、3 つのモデル（上記 2 つに加えモデル C）で行った。2000 年度調査のほうに関連要因についての質問項目が増えたので検討したモデルが多くなっている。3 つのモデルとは、周囲の者の飲酒および喫煙行動と学校が楽しいかと害があるとおもっているかの項目に限ったモデル（モデル A）、それらに生活習慣（食習慣）、クラブの参加状況、親へ悩みを相談するほうか等を加えたモデル（モデル B）、さらに睡眠障害、うつ状態に関する項目を加えたモデル（モデル C）であった。解析結果の比較は、男女、中高、1996 年度と 2000 年度で行った。統計ソフトは、SAS for Windows および SPSS for windows を用いた。

C. 研究結果

1996 年度全国調査の結果を分析すると、月喫煙（この 30 日に 1 日でも喫煙した）に関連した要因は、モデル A で検討した 8 つの変数のうち、学年が 1 つあがるを除いてすべてであった。中でも、友達の喫煙の相対危険度が最も高く、ついで、喫煙の害がないと思っていること、兄弟姉妹の喫煙、母の喫煙（特に女子）等であった。相対危険度は、男子より女子で、中学より高校で高かった。

月飲酒（この 30 日に 1 日でも飲酒した）に関連した要因は、モデル A では、学年が 1 つあがる以外検討した全ての要因であったが、相対危険度は喫煙の場合よりも小さかった。関連が強かったのは、友達の飲酒、飲酒の害があまり無いと思うこと、兄弟の飲酒、母の飲酒の順であったので、これも喫煙の場合と同様であった。

生活習慣、学校生活の要因もモデルに含めると（モデル B）、上記に加えて、生活習慣関係の関連要因はほとんどすべて統計学的に有意であった。特に、朝食をあまり食べないこと、高校ではさらに、クラブに積極的に参加しないこと、大学などへ進学希望が無いこと等が関連していた。睡眠障害やうつ傾向に関する項目の関連は、強くはなかった。

同様のモデルを月飲酒の場合で検討すると、食習慣を中心とした生活習慣関連要因はほとんど統計学的に有意な要因とならなかった。男女とも高校で望ましくないと一般に考えられている要因がわずかな危険因子のように関連していた。

喫煙及び飲酒ともモデル B で解析してもモデル A と重なっている要因の相対危険度はほとんど減少しなかった。飲酒の関連要因の場合、相対危険度は喫煙のそれにくれ小く、男女差が小さく、中高の差（高校で相対危険度がやや高いが）

も比較的小さかった。

2000 年度調査では、月喫煙の関連要因をみると、モデル A、B とも 1996 年度調査結果と関連する要因、それらの相対危険度の大きさ、男女差、中高差の特徴などほぼ同様であった。

睡眠障害やうつ状態との関連をみると（モデル C）、これらの関連は強くなかった。高校の男女で、睡眠障害に関連する要因が、危険因子様の結果をもたらしていた。飲酒の関連要因の種類、相対危険度の大きさ、その順位ともに、2000 年度調査結果は、1996 年度調査結果とほぼ同様であった。睡眠障害やうつ状態との関連をみると（モデル C）、男女、中高とも寝つきの悪さが月飲酒と関連していた。

D. 考察

本研究により、青少年の飲酒及び喫煙行動の関連要因が明らかになった。1996 年度調査と 2000 年度調査の結果を比較することにより、その関連要因分析結果がほとんど同様であったため、調査方法の再現性の高さと、関連要因がそう簡単には変化しないことを物語っている。同じようなモデルで解析した事例が海外にもあまりないため、国際比較はこれからの課題ではあるが、中国江西省での中高生の喫煙行動関連要因と比較すると、わが国の中高生は周囲の者の行動により影響されやすいことが推察される。

友人の喫煙や飲酒の相対危険度の大きさは、喫煙する者や、飲酒する者が、一塊になっていることを推察させるが、この場合一般に喫煙率や飲酒率が増大すれば（学年があがれば）、相対危険度は小さくなっていくものと思われるが、むしろ高校生のほうで値が高いのは、よほどそのような生徒と吸わない

飲まない生徒とが明瞭に別れるようになることを示唆している。また、家族の喫煙や飲酒も重要であるし、食習慣などの生活習慣が多く関連していたのも重要である。もちろん、断面調査なので因果関係を示してるわけではないが、飲酒や喫煙も望ましくない生活習慣に連動していることを示唆され、今後の健康教育に重要な情報を提供することになる。

E. 結論

未成年者の飲酒及び喫煙行動に関連する要因が明らかになり、喫煙及び飲酒防止対策に有効な情報を提供した。

F. 健康危機管理情報

特になし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 中高、男女別にみた現在喫煙(月喫煙)の関連要因、1996年(modelA)

		相対危険度 95%信 頼区間					相対危険度 95%信 頼区間		
男子		下限 上限			女子		下限 上限		
中学	月喫煙者	1844	非喫煙	19627	月喫煙者	773	非喫煙	20,554	
	学年1上がる	1.28	1.19	1.37	学年1上がる	1.06	0.96	1.17	
	父喫煙	1.21	1.09	1.35	父喫煙	1.06	0.90	1.26	
	母喫煙	1.45	1.27	1.66	母喫煙	1.64	1.37	1.96	
	兄喫煙	2.32	2.04	2.63	兄喫煙	2.15	1.80	2.57	
	姉喫煙	2.28	1.91	2.72	姉喫煙	2.81	2.27	3.48	
	友喫煙	8.59	7.52	9.81	友喫煙	12.39	10.27	14.94	
	学校楽しくない	1.57	1.41	1.75	学校楽しくない	1.87	1.59	2.19	
	害があまりない	4.23	3.71	4.82	害があまりない	5.21	4.25	6.38	
	モデル χ^2	2786.66	p<0.01	R2=0.275	モデル χ^2	1753.20	p<0.01	R2=0.295	
高校	月喫煙者	11055	非喫煙	24590	月喫煙者	3958	非喫煙	33,413	
	学年1上がる	1.33	1.29	1.37	学年1上がる	1.29	1.24	1.35	
	父喫煙	1.23	1.17	1.29	父喫煙	1.10	1.02	1.18	
	母喫煙	1.66	1.55	1.77	母喫煙	1.99	1.83	2.17	
	兄喫煙	1.91	1.80	2.02	兄喫煙	1.46	1.35	1.59	
	姉喫煙	2.08	1.92	2.27	姉喫煙	2.42	2.20	2.66	
	友喫煙	9.30	8.37	10.33	友喫煙	16.05	13.76	18.72	
	学校楽しくない	1.58	1.50	1.66	学校楽しくない	1.86	1.73	2.00	
	害があまりない	2.57	2.36	2.79	害があまりない	3.80	3.36	4.30	
	モデル χ^2	5939.30	p<0.01	R2=0.216	モデル χ^2	4975.71	p<0.01	R2=0.254	

表2 中高、男女別にみた現在喫煙(月喫煙)の関連要因、1996年(modelB)

		相対危険度 95%信 頼区間					相対危険度 95%信 頼区間		
男子		下限 上限			女子		下限 上限		
中学	学年1上がる	1.23	1.15	1.32	学年1上がる	1.05	0.95	1.16	
	父喫煙	1.18	1.06	1.32	父喫煙	1.07	0.90	1.27	
	母喫煙	1.32	1.15	1.51	母喫煙	1.48	1.23	1.78	
	兄喫煙	2.19	1.93	2.50	兄喫煙	1.88	1.56	2.26	
	姉喫煙	2.08	1.74	2.49	姉喫煙	2.52	2.02	3.15	
	友喫煙	8.51	7.43	9.73	友喫煙	11.08	9.17	13.40	
	学校楽しくない	1.40	1.25	1.56	学校楽しくない	1.55	1.31	1.83	
	害があまりない	3.61	3.16	4.13	害があまりない	4.23	3.43	5.22	
	朝食を抜く	1.69	1.50	1.90	朝食を抜く	2.18	1.84	2.59	
	牛乳毎日飲まない	1.25	1.11	1.40	牛乳毎日飲まない	1.25	1.06	1.47	
	コーヒー紅茶よく飲む	1.39	1.24	1.56	コーヒー紅茶よく飲む	1.39	1.17	1.65	
	炭酸飲料よく飲む	1.26	1.07	1.48	炭酸飲料よく飲む	1.70	1.32	2.20	
	ジュースよく飲む	1.35	1.17	1.56	ジュースよく飲む	1.17	0.93	1.46	
	クラブ積極参加無	1.37	1.22	1.53	クラブ積極参加無	1.83	1.53	2.18	
	親に悩み相談なし	1.60	1.37	1.86	親に悩み相談なし	1.79	1.47	2.19	
	高校以降進学希望無	1.43	1.23	1.65	高校以降進学希望無	1.45	1.18	1.79	
	モデル χ^2	2786.66	p<0.01	R2=0.307	モデル χ^2	2053.40	p<0.01	R2=0.343	
高校	学年1上がる	1.30	1.25	1.34	学年1上がる	1.30	1.24	1.36	
	父喫煙	1.16	1.10	1.22	父喫煙	1.07	0.99	1.15	
	母喫煙	1.43	1.33	1.53	母喫煙	1.75	1.61	1.92	
	兄喫煙	1.71	1.61	1.82	兄喫煙	1.36	1.25	1.48	
	姉喫煙	1.89	1.73	2.06	姉喫煙	2.14	1.94	2.37	
	友喫煙	9.25	8.30	10.30	友喫煙	14.56	12.47	17.01	
	学校楽しくない	1.29	1.22	1.36	学校楽しくない	1.58	1.46	1.70	
	害があまりない	2.23	2.05	2.43	害があまりない	3.27	2.88	3.72	
	朝食を抜く	1.71	1.62	1.81	朝食を抜く	2.09	1.93	2.26	
	牛乳毎日飲まない	1.32	1.25	1.39	牛乳毎日飲まない	1.12	1.03	1.23	
	コーヒー紅茶よく飲む	1.30	1.23	1.37	コーヒー紅茶よく飲む	1.33	1.23	1.43	
	炭酸飲料よく飲む	1.30	1.20	1.41	炭酸飲料よく飲む	1.28	1.11	1.48	
	ジュースよく飲む	1.59	1.50	1.68	ジュースよく飲む	1.45	1.33	1.59	
	クラブ積極参加無	1.68	1.59	1.78	クラブ積極参加無	2.09	1.88	2.32	
	親に悩み相談なし	1.33	1.25	1.42	親に悩み相談なし	1.30	1.20	1.41	
	高校以降進学希望無	1.90	1.81	2.00	高校以降進学希望無	1.82	1.69	1.96	
	モデル χ^2	8648.45	p<0.01	R2=0.303	モデル χ^2	6261.17	p<0.01	R2=0.314	

表3 中高、男女別にみた現在飲酒(月飲酒)の関連要因、1996年(modelA)

		相対危険度 95%信頼区間					相対危険度 95%信頼区間		
男子		下限		上限	女子		下限		上限
中学	月飲酒者	6332	非喫煙	15139	月飲酒者	5139	非喫煙	16,188	
	学年1上がる	0.98	0.94	1.01	学年1上がる	0.96	0.92	1.00	
	父飲酒	1.20	1.11	1.30	父飲酒	1.14	1.05	1.25	
	母飲酒	1.51	1.42	1.61	母飲酒	1.91	1.78	2.05	
	兄飲酒	1.51	1.40	1.64	兄飲酒	1.47	1.35	1.59	
	姉飲酒	1.65	1.50	1.81	姉飲酒	1.66	1.52	1.82	
	友飲酒	2.85	2.68	3.04	友飲酒	2.93	2.73	3.13	
	学校楽しくない	1.18	1.11	1.26	学校楽しくない	1.17	1.10	1.26	
	飲酒の害があまりない	1.93	1.81	2.06	飲酒の害があまりない	1.71	1.60	1.83	
	モデル χ^2	2459.21	p<0.01	R2=0.154	モデル χ^2	2389.32	p<0.01	R2=0.159	
高校	月飲酒者	17942	非喫煙	17703	月飲酒者	15132	非喫煙	22,239	
	学年1上がる	1.16	1.12	1.19	学年1上がる	1.08	1.05	1.11	
	父飲酒	1.14	1.09	1.21	父飲酒	1.09	1.04	1.16	
	母飲酒	1.51	1.44	1.58	母飲酒	1.62	1.54	1.69	
	兄飲酒	1.33	1.27	1.40	兄飲酒	1.25	1.19	1.31	
	姉飲酒	1.39	1.31	1.47	姉飲酒	1.38	1.31	1.45	
	友飲酒	3.56	3.34	3.79	友飲酒	3.24	3.05	3.43	
	学校楽しくない	1.08	1.03	1.13	学校楽しくない	1.15	1.10	1.20	
	飲酒の害があまりない	1.68	1.60	1.76	飲酒の害があまりない	1.78	1.71	1.87	
	モデル χ^2	3852.05	p<0.01	R2=0.137	モデル χ^2	4084.36	p<0.01	R2=0.140	

表4 中高、男女別にみた現在飲酒(月飲酒)の関連要因、1996年(modelB)

		相対危険度 95%信頼区間					相対危険度 95%信頼区間		
男子		下限		上限	女子		下限		上限
中学	学年1上がる	0.97	0.93	1.00	学年1上がる	0.96	0.92	1.00	
	父飲酒	1.24	1.15	1.34	父飲酒	1.19	1.09	1.29	
	母飲酒	1.52	1.43	1.63	母飲酒	1.94	1.81	2.09	
	兄飲酒	1.49	1.37	1.62	兄飲酒	1.43	1.32	1.56	
	姉飲酒	1.61	1.46	1.77	姉飲酒	1.62	1.48	1.78	
	友飲酒	2.79	2.61	2.97	友飲酒	2.81	2.63	3.01	
	学校楽しくない	1.15	1.08	1.23	学校楽しくない	1.12	1.05	1.21	
	飲酒の害があまりない	1.84	1.72	1.97	飲酒の害があまりない	1.63	1.52	1.75	
	朝食を抜く	1.35	1.25	1.46	朝食を抜く	1.30	1.20	1.42	
	牛乳毎日飲まない	1.03	0.96	1.10	牛乳毎日飲まない	1.12	1.04	1.20	
	コーヒー紅茶よく飲む	1.51	1.41	1.62	コーヒー紅茶よく飲む	1.60	1.48	1.72	
	炭酸飲料よく飲む	1.30	1.17	1.44	炭酸飲料よく飲む	1.26	1.10	1.44	
	ジュースよく飲む	1.02	0.93	1.12	ジュースよく飲む	1.04	0.94	1.16	
	クラブ積極参加無	1.03	0.96	1.10	クラブ積極参加無	1.13	1.06	1.22	
	親に悩み相談なし	1.09	1.01	1.17	親に悩み相談なし	1.06	0.98	1.13	
	高校以降進学希望無	0.98	0.91	1.06	高校以降進学希望無	0.95	0.88	1.03	
	モデル χ^2	2748.71	p<0.01	R2=0.171	モデル χ^2	2661.61	p<0.01	R2=0.175	
高校	学年1上がる	1.14	1.11	1.17	学年1上がる	1.07	1.04	1.10	
	父飲酒	1.19	1.13	1.26	父飲酒	1.13	1.07	1.19	
	母飲酒	1.54	1.47	1.61	母飲酒	1.64	1.56	1.71	
	兄飲酒	1.29	1.23	1.36	兄飲酒	1.23	1.17	1.29	
	姉飲酒	1.38	1.30	1.46	姉飲酒	1.35	1.28	1.42	
	友飲酒	3.53	3.32	3.76	友飲酒	3.16	2.98	3.35	
	学校楽しくない	1.00	0.96	1.05	学校楽しくない	1.07	1.03	1.12	
	飲酒の害があまりない	1.60	1.52	1.68	飲酒の害があまりない	1.71	1.64	1.79	
	朝食を抜く	1.37	1.30	1.44	朝食を抜く	1.44	1.36	1.52	
	牛乳毎日飲まない	1.09	1.04	1.14	牛乳毎日飲まない	1.02	0.97	1.07	
	コーヒー紅茶よく飲む	1.27	1.21	1.33	コーヒー紅茶よく飲む	1.28	1.22	1.35	
	炭酸飲料よく飲む	1.12	1.03	1.20	炭酸飲料よく飲む	1.19	1.07	1.33	
	ジュースよく飲む	1.12	1.06	1.18	ジュースよく飲む	1.07	1.00	1.13	
	クラブ積極参加無	1.07	1.02	1.12	クラブ積極参加無	1.24	1.18	1.30	
	親に悩み相談なし	1.11	1.05	1.17	親に悩み相談なし	1.07	1.02	1.12	
	高校以降進学希望無	1.30	1.24	1.36	高校以降進学希望無	1.22	1.17	1.28	
	モデル χ^2	4452.93	p<0.01	R2=0.157	モデル χ^2	4621.63	p<0.01	R2=0.157	

表5 中高、男女別にみた現在喫煙(月喫煙)の関連要因、2000年(modelA)

		相対危険度 95%信 頼区間					相対危険度 95%信 頼区間		
男子		下限	上限		女子		下限	上限	
中学	月喫煙者	2285	非喫煙	21982	月喫煙者	1149	非喫煙	20,001	
	学年1上がる	1.25	1.17	1.33	学年1上がる	1.05	0.97	1.14	
	父喫煙	1.34	1.21	1.48	父喫煙	1.21	1.06	1.40	
	母喫煙	1.70	1.52	1.90	母喫煙	2.03	1.77	2.34	
	兄喫煙	2.42	2.15	2.72	兄喫煙	2.25	1.94	2.62	
	姉喫煙	2.41	2.05	2.83	姉喫煙	2.55	2.12	3.07	
	友喫煙	8.27	7.34	9.31	友喫煙	12.67	10.73	14.98	
	学校楽しくない	1.42	1.29	1.56	学校楽しくない	1.36	1.19	1.55	
	害があまりない	4.05	3.60	4.57	害があまりない	4.47	3.74	5.36	
モデル χ^2		3430.42	p<0.01	R2=0.284	モデル χ^2		2380.53	p<0.01	R2=0.309
高校	月喫煙者	8615	非喫煙	19791	月喫煙者	3717	非喫煙	25,374	
	学年1上がる	1.28	1.24	1.32	学年1上がる	1.18	1.12	1.23	
	父喫煙	1.29	1.22	1.36	父喫煙	1.28	1.18	1.38	
	母喫煙	1.61	1.50	1.73	母喫煙	1.90	1.75	2.08	
	兄喫煙	1.90	1.78	2.04	兄喫煙	1.55	1.43	1.69	
	姉喫煙	2.19	1.99	2.40	姉喫煙	2.34	2.11	2.59	
	友喫煙	11.99	10.46	13.73	友喫煙	17.24	14.45	20.57	
	学校楽しくない	1.46	1.38	1.54	学校楽しくない	1.75	1.62	1.89	
	害があまりない	3.26	2.97	3.59	害があまりない	3.69	3.20	4.25	
モデル χ^2		4864.24	p<0.01	R2=0.223	モデル χ^2		4129.35	p<0.01	R2=0.248

表6 中高、男女別にみた現在喫煙(月喫煙)の関連要因、2000年(modelB)

男子				女子				
		相対危険度	95%信 頼区間			相対危険度	95%信 頼区間	
		下限	上限			下限	上限	
中学	学年1上がる	1.18	1.11	1.26	学年1上がる	1.00	0.92	1.10
	父喫煙	1.30	1.17	1.43	父喫煙	1.19	1.03	1.38
	母喫煙	1.50	1.33	1.68	母喫煙	1.78	1.54	2.06
	兄喫煙	2.30	2.04	2.60	兄喫煙	2.10	1.80	2.45
	姉喫煙	2.17	1.84	2.56	姉喫煙	2.30	1.90	2.78
	友喫煙	7.93	7.03	8.95	友喫煙	11.20	9.46	13.27
	学校楽しくない	1.30	1.18	1.43	学校楽しくない	1.17	1.02	1.34
	害があまりない	3.58	3.17	4.05	害があまりない	3.58	2.97	4.32
	朝食を抜く	1.85	1.66	2.06	朝食を抜く	2.08	1.79	2.40
	牛乳毎日飲まない	1.22	1.10	1.35	牛乳毎日飲まない	1.49	1.30	1.72
	コーヒー紅茶よく飲む	1.29	1.15	1.43	コーヒー紅茶よく飲む	1.27	1.08	1.48
	炭酸飲料よく飲む	1.35	1.16	1.58	炭酸飲料よく飲む	1.77	1.41	2.21
	ジュースよく飲む	1.26	1.11	1.43	ジュースよく飲む	1.28	1.08	1.51
	クラブ積極参加無	1.41	1.27	1.57	クラブ積極参加無	1.62	1.39	1.89
親に悩み相談なし	1.19	1.05	1.35	親に悩み相談なし	1.32	1.13	1.53	
高校以降進学希望無	1.08	0.96	1.22	高校以降進学希望無	1.05	0.89	1.23	
モデル χ^2	3710.75	p<0.01	R2=0.309	モデル χ^2	2665.14	p<0.01	R2=0.346	
高校	学年1上がる	1.24	1.19	1.28	学年1上がる	1.14	1.08	1.19
	父喫煙	1.20	1.13	1.27	父喫煙	1.24	1.14	1.34
	母喫煙	1.34	1.24	1.44	母喫煙	1.61	1.47	1.77
	兄喫煙	1.75	1.63	1.88	兄喫煙	1.43	1.30	1.56
	姉喫煙	1.95	1.77	2.15	姉喫煙	2.06	1.85	2.29
	友喫煙	12.08	10.50	13.89	友喫煙	14.83	12.40	17.73
	学校楽しくない	1.20	1.13	1.28	学校楽しくない	1.42	1.32	1.54
	害があまりない	2.82	2.55	3.11	害があまりない	3.23	2.78	3.74
	朝食を抜く	1.80	1.69	1.92	朝食を抜く	1.99	1.83	2.17
	牛乳毎日飲まない	1.26	1.19	1.34	牛乳毎日飲まない	1.24	1.12	1.37
	コーヒー紅茶よく飲む	1.42	1.33	1.51	コーヒー紅茶よく飲む	1.33	1.22	1.44
	炭酸飲料よく飲む	1.30	1.18	1.43	炭酸飲料よく飲む	1.27	1.08	1.49
	ジュースよく飲む	1.50	1.40	1.60	ジュースよく飲む	1.45	1.31	1.60
	クラブ積極参加無	1.84	1.72	1.97	クラブ積極参加無	2.44	2.17	2.73
親に悩み相談なし	1.28	1.20	1.38	親に悩み相談なし	1.20	1.11	1.30	
高校以降進学希望無	1.82	1.71	1.93	高校以降進学希望無	2.02	1.86	2.19	
モデル χ^2	6861.79	p<0.01	R2=0.306	モデル χ^2	5306.09	p<0.01	R2=0.314	

表7 中高、男女別にみた現在喫煙(月喫煙)の関連要因、2000年(modelC)

		男子			女子		
		相対危険度		95%信頼区間	相対危険度		95%信頼区間
		下限	上限		下限	上限	
中学	学年1上がる	1.17	1.09	1.25	0.99	0.90	1.08
	父喫煙	1.32	1.19	1.46	1.18	1.02	1.37
	母喫煙	1.48	1.31	1.66	1.79	1.54	2.08
	兄喫煙	2.23	1.98	2.53	2.07	1.76	2.43
	姉喫煙	2.16	1.82	2.56	2.31	1.90	2.81
	友喫煙	7.73	6.84	8.75	10.86	9.12	12.94
	学校楽しくない	1.20	1.08	1.33	1.01	0.87	1.18
	害があまりない	3.57	3.15	4.05	3.61	2.97	4.37
	朝食を抜く	1.79	1.59	2.00	1.93	1.66	2.25
	牛乳毎日飲まない	1.23	1.10	1.36	1.49	1.29	1.72
	コーヒー紅茶よく飲む	1.25	1.12	1.39	1.23	1.05	1.45
	炭酸飲料よく飲む	1.27	1.08	1.48	1.63	1.29	2.06
	ジュースよく飲む	1.20	1.05	1.37	1.23	1.03	1.48
	クラブ積極参加無	1.39	1.25	1.54	1.55	1.32	1.81
	親に悩み相談なし	1.16	1.02	1.32	1.29	1.11	1.51
	高校以降進学希望無	1.13	1.00	1.28	1.09	0.92	1.30
	スナック菓子毎日	1.16	1.01	1.32	1.15	0.98	1.35
	寝付きにくい	1.22	1.07	1.39	1.04	0.87	1.24
	昼眠くなる	1.25	1.12	1.40	1.16	1.00	1.34
	眠りの質悪い	1.04	0.93	1.16	1.12	0.97	1.31
	興味楽しみ無い	1.20	1.07	1.35	1.40	1.19	1.64
	気分が落ちこむ	1.17	1.01	1.36	1.24	1.03	1.48
	モデル χ^2	3667.59	p<0.01	R2=0.316	2603.80	p<0.01	R2=0.352
高校	学年1上がる	1.23	1.19	1.28	1.15	1.09	1.21
	父喫煙	1.19	1.12	1.26	1.24	1.14	1.34
	母喫煙	1.32	1.22	1.43	1.60	1.46	1.75
	兄喫煙	1.76	1.64	1.89	1.41	1.29	1.55
	姉喫煙	1.95	1.77	2.16	2.06	1.84	2.29
	友喫煙	11.72	10.17	13.52	14.50	12.09	17.39
	学校楽しくない	1.15	1.08	1.22	1.30	1.19	1.41
	害があまりない	2.80	2.53	3.10	3.30	2.83	3.84
	朝食を抜く	1.73	1.62	1.85	1.88	1.72	2.05
	牛乳毎日飲まない	1.25	1.17	1.33	1.22	1.10	1.35
	コーヒー紅茶よく飲む	1.38	1.29	1.47	1.30	1.19	1.41
	炭酸飲料よく飲む	1.31	1.19	1.45	1.24	1.04	1.46
	ジュースよく飲む	1.47	1.37	1.58	1.47	1.33	1.63
	クラブ積極参加無	1.82	1.70	1.95	2.39	2.13	2.68
	親に悩み相談なし	1.25	1.17	1.35	1.17	1.08	1.27
	高校以降進学希望無	1.83	1.72	1.95	2.01	1.85	2.19
	スナック菓子毎日	0.95	0.87	1.04	0.96	0.87	1.06
	寝付きにくい	1.22	1.13	1.32	1.40	1.27	1.55
	昼眠くなる	1.35	1.27	1.43	1.13	1.04	1.22
	眠りの質悪い	1.11	1.04	1.18	1.18	1.09	1.29
	興味楽しみ無い	1.23	1.15	1.32	1.20	1.10	1.32
	気分が落ちこむ	0.90	0.82	0.98	1.06	0.96	1.18
	モデル χ^2	6871.36	p<0.01	R2=0.313	5317.36	p<0.01	R2=0.322

表8 中高、男女別にみた現在飲酒(月飲酒)の関連要因、2000年(modelA)

		相対危険度 95%信 頼区間					相対危険度 95%信 頼区間		
男子		下限	上限		女子		下限	上限	
中学	月飲酒者	6957	非喫煙	17471	月飲酒者	5461	非喫煙	15,797	
	学年1上がる	1.01	0.97	1.05	学年1上がる	0.95	0.91	0.99	
	父飲酒	1.41	1.31	1.52	父飲酒	1.13	1.04	1.23	
	母飲酒	1.64	1.54	1.74	母飲酒	1.79	1.67	1.92	
	兄飲酒	1.65	1.53	1.79	兄飲酒	1.64	1.51	1.78	
	姉飲酒	1.79	1.64	1.96	姉飲酒	1.95	1.79	2.13	
	友飲酒	2.81	2.64	2.99	友飲酒	2.98	2.79	3.19	
	学校楽しくない	1.10	1.04	1.17	学校楽しくない	1.17	1.10	1.25	
	飲酒の害があまりない	1.80	1.69	1.92	飲酒の害があまりない	1.74	1.63	1.86	
モデルχ ²		2908.02	p<0.01	R ² =0.161	モデルχ ²		2592.59	p<0.01	R ² =0.169
高校	月飲酒者	13908	非喫煙	14588	月飲酒者	12136	非喫煙	17,004	
	学年1上がる	1.12	1.09	1.16	学年1上がる	1.05	1.02	1.09	
	父飲酒	1.24	1.16	1.31	父飲酒	1.15	1.08	1.22	
	母飲酒	1.55	1.47	1.63	母飲酒	1.77	1.68	1.86	
	兄飲酒	1.32	1.25	1.40	兄飲酒	1.33	1.26	1.41	
	姉飲酒	1.44	1.35	1.53	姉飲酒	1.42	1.34	1.50	
	友飲酒	4.33	4.03	4.66	友飲酒	3.82	3.56	4.10	
	学校楽しくない	1.09	1.04	1.14	学校楽しくない	1.11	1.06	1.17	
	飲酒の害があまりない	1.65	1.56	1.74	飲酒の害があまりない	1.70	1.61	1.79	
モデルχ ²		3534.83	p<0.01	R ² =0.156	モデルχ ²		3576.12	p<0.01	R ² =0.155

表9 中高、男女別にみた現在飲酒(月飲酒)の関連要因、2000年(modelB)

		相対危険度 95%信 頼区間					相対危険度 95%信 頼区間		
男子		下限	上限		女子		下限	上限	
中学	学年1上がる	0.99	0.95	1.03	学年1上がる	0.93	0.89	0.98	
	父飲酒	1.47	1.36	1.58	父飲酒	1.19	1.09	1.29	
	母飲酒	1.64	1.54	1.74	母飲酒	1.80	1.68	1.94	
	兄飲酒	1.65	1.52	1.78	兄飲酒	1.61	1.48	1.75	
	姉飲酒	1.77	1.62	1.94	姉飲酒	1.91	1.75	2.09	
	友飲酒	2.71	2.55	2.89	友飲酒	2.85	2.66	3.05	
	学校楽しくない	1.08	1.01	1.15	学校楽しくない	1.13	1.05	1.21	
	飲酒の害があまりない	1.75	1.64	1.86	飲酒の害があまりない	1.69	1.58	1.81	
	朝食を抜く	1.29	1.19	1.40	朝食を抜く	1.37	1.26	1.50	
	牛乳毎日飲まない	1.03	0.97	1.10	牛乳毎日飲まない	1.05	0.98	1.12	
	コーヒー紅茶よく飲む	1.67	1.56	1.79	コーヒー紅茶よく飲む	1.54	1.43	1.67	
	炭酸飲料よく飲む	1.28	1.15	1.43	炭酸飲料よく飲む	1.42	1.24	1.64	
	ジュースよく飲む	0.99	0.92	1.08	ジュースよく飲む	1.04	0.95	1.14	
	クラブ積極参加無	1.06	0.99	1.13	クラブ積極参加無	1.11	1.03	1.19	
	親に悩み相談なし	1.06	0.98	1.14	親に悩み相談なし	1.05	0.98	1.13	
	高校以降進学希望無	0.80	0.75	0.86	高校以降進学希望無	0.92	0.85	1.00	
	モデルχ ²	3229.16	p<0.01	R ² =0.179	モデルχ ²	2818.33	p<0.01	R ² =0.184	
高校	学年1上がる	1.10	1.07	1.14	学年1上がる	1.03	1.00	1.06	
	父飲酒	1.28	1.21	1.36	父飲酒	1.19	1.12	1.27	
	母飲酒	1.56	1.48	1.64	母飲酒	1.81	1.72	1.91	
	兄飲酒	1.30	1.23	1.38	兄飲酒	1.31	1.24	1.39	
	姉飲酒	1.42	1.33	1.52	姉飲酒	1.38	1.30	1.47	
	友飲酒	4.27	3.97	4.60	友飲酒	3.64	3.40	3.91	
	学校楽しくない	1.02	0.97	1.07	学校楽しくない	1.02	0.97	1.07	
	飲酒の害があまりない	1.61	1.53	1.70	飲酒の害があまりない	1.64	1.56	1.73	
	朝食を抜く	1.36	1.28	1.45	朝食を抜く	1.43	1.34	1.53	
	牛乳毎日飲まない	1.07	1.01	1.13	牛乳毎日飲まない	1.06	1.00	1.13	
	コーヒー紅茶よく飲む	1.33	1.26	1.41	コーヒー紅茶よく飲む	1.30	1.23	1.37	
	炭酸飲料よく飲む	1.07	0.98	1.17	炭酸飲料よく飲む	1.22	1.07	1.38	
	ジュースよく飲む	1.17	1.10	1.24	ジュースよく飲む	1.12	1.04	1.20	
	クラブ積極参加無	1.16	1.10	1.22	クラブ積極参加無	1.33	1.26	1.41	
	親に悩み相談なし	1.08	1.02	1.15	親に悩み相談なし	1.04	0.99	1.09	
	高校以降進学希望無	1.22	1.16	1.30	高校以降進学希望無	1.30	1.22	1.38	
	モデルχ ²	3970.95	p<0.01	R ² =0.174	モデルχ ²	4047.63	p<0.01	R ² =0.175	

表10 中高、男女別にみた現在飲酒(月飲酒)の関連要因、2000年(modelC)

		相対危険度 95%信 頼区間					相対危険度 95%信 頼区間		
男子		下限	上限		女子		下限	上限	
中学	学年1上がる	0.98	0.94	1.02	学年1上がる	0.93	0.88	0.97	
	父飲酒	1.48	1.37	1.60	父飲酒	1.20	1.10	1.30	
	母飲酒	1.63	1.53	1.74	母飲酒	1.82	1.69	1.95	
	兄飲酒	1.65	1.52	1.79	兄飲酒	1.59	1.46	1.73	
	姉飲酒	1.77	1.61	1.94	姉飲酒	1.93	1.76	2.11	
	友飲酒	2.65	2.48	2.82	友飲酒	2.79	2.60	2.99	
	学校楽しくない	1.02	0.96	1.09	学校楽しくない	1.07	0.99	1.15	
	飲酒の害があまりない	1.73	1.63	1.85	飲酒の害があまりない	1.70	1.58	1.82	
	朝食を抜く	1.22	1.13	1.33	朝食を抜く	1.31	1.20	1.43	
	牛乳毎日飲まない	1.02	0.96	1.09	牛乳毎日飲まない	1.03	0.97	1.11	
	コーヒー紅茶よく飲む	1.66	1.54	1.78	コーヒー紅茶よく飲む	1.51	1.39	1.63	
	炭酸飲料よく飲む	1.29	1.15	1.44	炭酸飲料よく飲む	1.43	1.24	1.65	
	ジュースよく飲む	0.99	0.91	1.08	ジュースよく飲む	1.06	0.96	1.17	
	クラブ積極参加無	1.04	0.98	1.11	クラブ積極参加無	1.09	1.02	1.18	
	親に悩み相談なし	1.03	0.96	1.11	親に悩み相談なし	1.04	0.97	1.12	
	高校以降進学希望無	0.81	0.76	0.87	高校以降進学希望無	0.92	0.85	1.00	
	スナック菓子毎日	0.94	0.87	1.03	スナック菓子毎日	0.89	0.82	0.97	
	寝付きにくい	1.19	1.09	1.31	寝付きにくい	1.22	1.11	1.33	
	昼眠くなる	1.06	0.99	1.14	昼眠くなる	1.18	1.10	1.27	
	眠りの質悪い	1.17	1.09	1.25	眠りの質悪い	1.07	0.99	1.15	
	興味楽しみ無い	1.23	1.14	1.33	興味楽しみ無い	1.09	1.00	1.19	
	気分が落ちこむ	1.02	0.92	1.13	気分が落ちこむ	1.01	0.91	1.11	
	モデルχ2	3244.26	p<0.01	R2=0.185	モデルχ2	2824.36	p<0.01	R2=0.190	
高校	学年1上がる	1.10	1.06	1.13	学年1上がる	1.03	1.00	1.07	
	父飲酒	1.28	1.21	1.37	父飲酒	1.20	1.12	1.28	
	母飲酒	1.55	1.47	1.63	母飲酒	1.80	1.71	1.90	
	兄飲酒	1.30	1.23	1.38	兄飲酒	1.30	1.23	1.38	
	姉飲酒	1.43	1.34	1.52	姉飲酒	1.37	1.29	1.46	
	友飲酒	4.12	3.82	4.44	友飲酒	3.58	3.33	3.85	
	学校楽しくない	0.99	0.94	1.04	学校楽しくない	0.99	0.94	1.05	
	飲酒の害があまりない	1.61	1.53	1.70	飲酒の害があまりない	1.66	1.57	1.74	
	朝食を抜く	1.33	1.25	1.41	朝食を抜く	1.38	1.29	1.48	
	牛乳毎日飲まない	1.05	1.00	1.11	牛乳毎日飲まない	1.07	1.01	1.13	
	コーヒー紅茶よく飲む	1.32	1.25	1.39	コーヒー紅茶よく飲む	1.28	1.21	1.36	
	炭酸飲料よく飲む	1.08	0.99	1.18	炭酸飲料よく飲む	1.23	1.08	1.40	
	ジュースよく飲む	1.15	1.08	1.23	ジュースよく飲む	1.15	1.07	1.24	
	クラブ積極参加無	1.15	1.09	1.22	クラブ積極参加無	1.31	1.24	1.39	
	親に悩み相談なし	1.07	1.01	1.13	親に悩み相談なし	1.02	0.97	1.08	
	高校以降進学希望無	1.23	1.16	1.30	高校以降進学希望無	1.29	1.21	1.37	
	スナック菓子毎日	0.96	0.89	1.04	スナック菓子毎日	0.88	0.83	0.94	
	寝付きにくい	1.14	1.06	1.22	寝付きにくい	1.25	1.16	1.34	
	昼眠くなる	1.22	1.15	1.29	昼眠くなる	1.13	1.07	1.19	
	眠りの質悪い	1.06	1.00	1.12	眠りの質悪い	1.03	0.98	1.09	
	興味楽しみ無い	1.09	1.02	1.16	興味楽しみ無い	1.07	1.01	1.14	
	気分が落ちこむ	0.95	0.88	1.02	気分が落ちこむ	0.97	0.91	1.04	
	モデルχ2	3952.47	p<0.01	R2=0.177	モデルχ2	4040.45	p<0.01	R2=0.179	

厚生科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）
分担研究報告書

生徒と父母の喫煙及び飲酒行動の関連に関する研究

分担研究者 谷畑健生（国立公衆衛生院・疫学部・主任研究官）

研究要旨

1996 年度に実施、未解析のままであった、中高生とその親（父母両方）に対する 3 つ組み調査の結果を分析することにより、関連要因とともに親の影響について検討した。

生徒の回答による父母の喫煙状況や飲酒状況は、父母それぞれによる自己申告から明らかになった、飲酒及び喫煙行動の実態とよく一致した。また、父母の飲酒及び喫煙行動はそれぞれ、生徒の飲酒及び喫煙行動と関連しており、これらの影響をもし、除外できればかなりの割合の未成年者の飲酒及び喫煙率が低下させることができると推察された。

また、中高生の回答による喫煙者や飲酒者の親の回答をみると、子どもが喫煙および飲酒をしているにもかかわらず、自分の子は吸っていないとか、飲んでいないと思っている親がいかに多いかが、明らかになり、親がもっと自分の子どもの、飲酒及び喫煙行動に関心を持つべきであるといえた。

A. 研究目的

わが国の未成年者の飲酒及び喫煙におやの飲酒や喫煙が影響を与えていることは、以前からよく指摘されてきた。しかし、それらの研究の多くは、子どもが親の喫煙や飲酒状況を正しく把握していると仮定した、子ども（生徒）向けのアンケート調査によるものである。もし、親子の 3 者（父母と子）に同時に調査でき、それらの結果をリンクできれば、より、正確な結果が期待できるし、子どもの回答と親の回答の一致度も検討でき、子どもへの調査票のみを用いて関連要因を調査することの妥当性も検討できる。

本研究では、無記名のまま親子の調査票をリンクできる 3 つ組み調査の方法を開発し、その調査結果を分析することにより、親の飲酒及び喫煙の子どもの飲酒及び喫煙行動へ及ぼす影響を検討すること

を目的とする。

B. 研究方法

1996 年度に行った中高生の飲酒及び喫煙行動に関する全国調査と同時期に別サンプルに対して行った親子の飲酒及び喫煙行動に関する 3 つ組み調査の結果が未解析であったので、分析を行った。

調査対象校は、1996 年度版全国学校総覧を用い、単純無作為抽出により、学校を抽出し（中学校 25 校、高等学校 15 校）、在校生全員への調査を行った。したがってこの標本抽出方法は一段クラスター抽出となる。調査は父母、生徒用すべて無記名自記式調査票による調査であった。調査手順は、学校で生徒へ父母それぞれへの調査票と糊付封筒を自宅へ持って帰ってもらい、自宅で父母別々に調査票に記入してもらい、その場で糊付封筒に入れ封をして

もらい、翌日生徒に学校へ持ってきたもらい、生徒は学校の教室で生徒用調査票を記入し、それを糊付封筒に入れ封をしてもらった。その後、父母、生徒の3つの封筒を1つの中封筒に入れて、封をしてもらった。これにより、無記名調査票のままで、父母と生徒3者の調査票をリンクさせることができた。教師はそれを回収し、学校で開封することなく箱につめ調査票を回収する研究所を返送した。調査内容は、生徒用は喫煙及び飲酒行動と関連要因、父母用は自分自身の飲酒及び喫煙状況と自分の子どもの飲酒及び喫煙行動に関する認識等であった。調査期間は1996年12月より1997年1月までであった。調査協力率は、中学14/25(56%)、高校10/15(66.7%)であった。調査票は、16,732通回収され、性、学年が不明のもの、矛盾回答のあったもの1,134通を除いた、15,598通を解析対象とした。依頼学校の総生徒数に占める解析対象数の占める割合は、中学44.9%、高校56.1%であった。生徒と父、生徒と母、生徒と父母両方の対応がとれた調査票のペアおよび3つ組(トリプレット)は、それぞれ12,169、13,263、11,561であった。

C. 研究結果

生徒の回答による父母の喫煙及び飲酒行動と一致度が高かったのは、父母による自己申告の、喫煙では「毎日喫煙+時々喫煙」、飲酒では「月1回以上の飲酒」であった。生徒の回答と父母の自己申告の結果を比較すると、喫煙及び飲酒とも一致度は高かった(κ 係数、敏感度、特異度いずれも)。生徒の回答による父母の喫煙が生徒の喫煙行動に与える影響をみると、父母ともに相対危険度が高かった。特に、母の影響の強さが大きかった。父母ともにモデルに用いたロジスティック回帰分析では、男女と

も父母を合わせた喫煙の人口寄与リスク%が2割前後となった。父母の自己申告を用いたモデルでは、相対危険度は、生徒の回答を用いたモデルと比較してもほとんど変化はないが、特に女子の人口寄与リスク%が上昇した。おれは、生徒の回答によるモデルでは、父母の喫煙状況の誤分類が起こっているためであった。飲酒率をみると、喫煙の場合と同様の相対危険度を示したが、母の喫煙率に比べ飲酒率が高いため人口寄与リスク%が喫煙の場合より高くなった。

中高生の飲酒者および喫煙者の父母の自分の子どもの飲酒および喫煙の認識をみると、多くの父母が今は飲んでいない、吸っていないと回答しており、特に女子の喫煙では過半数の両親が吸ったこともないと思っていた。

D. 考察

本研究では、中高生の父母の飲酒、喫煙行動についての解答はかなり妥当性が高く、子どもへの調査だけを用いて周囲の者の飲酒や喫煙の影響をみるための分析を行うことが十分実施可能であることを示すことができた。そのため過去の調査研究の結果の再評価にもつながる知見であった。

また、父母の飲酒および喫煙行動の影響の大きさと父母の子どもの飲酒及び喫煙についての認識の低さが浮き彫りになり、親の関心を喚起する必要性が明らかになった。

父母の喫煙や飲酒行動の影響をもしもなくすることができれば(親の禁煙、家庭内禁煙・分煙)、子どもの喫煙率や飲酒率をかなりの割合へらすことができるのでないかとの仮説を持つことができる結果である。

E. 結論

父母の飲酒及び喫煙が未成年者の飲酒及び喫煙行動に大きな影響を与えることが明らかになったが、親の認識は低く、注意を喚起することが緊急の課題である。

F. 健康危機管理情報

特になし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 父母の自己申告による喫煙状況と生徒による回答との一致度

		生徒による回答		一致度	敏感度	特異度
		喫煙なし	喫煙あり	κ	父母の申告を真とする	
父の自己申告を真とする	父の自己申告	4514	669	0.73	0.86	0.87
	喫煙なし	949	6037			
	喫煙あり					
母の自己申告を真とする	母の自己申告	4378	805	0.74	0.89	0.84
	喫煙なし	761	6225			
	喫煙あり					
父の自己申告を真とする	父の自己申告	11218	301	0.68	0.65	0.97
	喫煙なし	604	1140			
	喫煙あり					
母の自己申告を真とする	母の自己申告	11051	468	0.71	0.76	0.96
	喫煙なし	416	1328			
	喫煙あり					

表2 父母の喫煙が生徒の喫煙行動に与える影響(生徒の回答による父母の喫煙状況別に解析)

		月喫煙率	合計数	相対危険度		相対危険度	
				単変量解析 95%CI	PAR%	多変量解析 95%CI	PAR%
男子	父喫煙	21.1	4698	1.3 (1.14-1.48)	14	1.25 (1.09-1.43)	11.9
	父非喫煙・その他	18.2	3819				
	母喫煙	26	1139	1.83 (1.55-2.16)	9.8	1.66 (1.38-2.01)	8
	母非喫煙・その他	18.8	7378				
女子	父喫煙	7.4	3892	1.39 (1.11-1.76)	18	1.25 (0.98-1.60)	12.3
	父非喫煙・その他	5.9	2956				
	母喫煙	11	978	2.13 (1.66-2.73)	13.7	1.88 (1.39-2.53)	11
	母非喫煙・その他	6	5870				

いずれも年齢で調整

表3 父母の喫煙が生徒の喫煙行動に与える影響(父母の自己申告による父母の喫煙状況別に解析)

		月喫煙率	合計数	相対危険度		相対危険度	
				単変量解析 95%CI	PAR%	多変量解析 95%CI	PAR%
男子	父喫煙	20.4	3758	1.3 (1.14-1.47)	17.3	1.25 (1.09-1.43)	13.2
	父非喫煙・その他	16.1	2434				
	母喫煙	24.8	964	1.64 (1.39-1.94)	8.5	1.53 (1.27-1.84)	7.2
	母非喫煙・その他	18	5648				
女子	父喫煙	7.2	3167	1.44 (1.15-1.82)	21.6	1.33 (1.04-1.70)	17.1
	父非喫煙・その他	4.7	1895				
	母喫煙	10.7	806	2.09 (1.61-2.70)	13.8	1.81 (1.34-2.45)	10.6
	母非喫煙・その他	6.1	4680				

いずれも年齢で調整

厚生科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）
分担研究報告書

酒のテレビ広告に関する研究

分担研究者 曾根智史（国立公衆衛生院・公衆衛生行政学部・室長）

研究要旨

未成年者の飲酒を取り巻く環境のなかでも広告をはじめとした飲酒に興味を持たせようとするものは重要である。本研究では、未成年者に影響を与えるであろう広告媒体の中でも特にテレビ広告の焦点をあて、酒広告の実態と特徴を明らかにし、未成年者の飲酒行動への影響を考察した。

2000 年度の研究班で行っていた、酒のテレビCM調査結果（7 月初旬、8 月初旬、11 月中旬のそれぞれ1 週間×24 時間の東京地区民放5 チャンネルで放送された全ての酒CMの集計）の数量的分析方法を検討し、調査シートを作成し、分析結果をシートに記入し、その結果をコンピューター入力し、分析した。分析内容は、放映時間帯、登場人物、提供情報の内容、警告表示などであった。

A. 研究目的

未成年飲酒にはさまざまな環境要因が関与していると考えられているが、わが国では、特にテレビCMの問題がしばしば論議される。たばこのCMが業界の自主規制により中止になってからは、薬物関連のテレビCMは、もっぱら飲酒のみで、青少年への悪影響が危惧されながらも、放映され続けているのが現状である。

本研究では、酒のテレビCMが未成年者に与える影響を考察するための基礎資料とするために、酒CMの実態を数量的に把握することを目的とする。

B. 研究方法

2000 年度の研究班で行っていた、酒のテレビCM調査結果（7 月初旬、8 月初旬、11 月中旬のそれぞれ1 週間×24 時間の東京地区民放5 チャンネルで放送された全ての酒CMの集計）の数量的分析方

法を検討し、調査シートを作成し、分析結果をシートに記入し、その結果をコンピューター入力し、分析した。分析内容は、放映時間帯、登場人物、提供情報の内容、警告表示などであった。

調査の実際は、ビデオデッキ5 台を用いて東京地区での民放、5 チャンネル（日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京）の1 週間のすべてのプログラムを3 回（のべ3 週間）連続録画し、分析した。分析は、ビデオテープをすべて見て、酒CMをみつけたら、客観的数量的調査項目が記載されたシートに記録する、という方法で実施した。

C. 研究結果

飲酒に関する広告調査のうちテレビ広告の数量的分析を実施した。前年度録画してあった、2000 年の3 時期それぞれ1 週間分の東京地区の民放各社における酒CMの分析を行った。3 週間で 2402 本のCMが放映され（6 月末からの1 週間で994 本、

7月末からの1週間で825本、11月中旬の1週間で583本)ていた。1放送局あたり、1日23本のCM換算となる。ビール(953本)、発泡酒(587本

)の広告件数が多いこと、7月おわりから8月初旬の1週間は発泡酒の広告件数が多いこと(296本)、昼過ぎるとすでに広告が流れ始め、夕方から深夜にかけて増加すること等が明らかになった。最も多い時間は、夜11時台(464本)、次いで午前0時台(深夜 343本)、午後6時台(215本)、午後10時台(194本)、午後9時台(181本)であった。広告内容ものみやすさの強調、おいしさの強調、価格情報の提供があるものが目立った。CMの内容もさまざまな飲酒場面を映像で表現し、多くの有名タレントが出演していた。

D. 考察

本研究により、酒のテレビCMは大量に、頻回に放映されていることが明になった。午後になればすでにCMが流れ始め、青少年がよくテレビを見る、プライムタイムやゴールデンタイムには多くのC

Mが流れていた。内容を含め、青少年への悪影響(酒を飲んでみたいと思わせるような)が心配される結果となった。

E. 結論

未成年者の目に触れる機会が多いと考えられる酒のテレビCMの分析を行った。青少年への影響がどの程度かは、この調査方法ではわからないが、数量的に多くのCMが流れていることが明らかになった。

F. 健康危機管理情報

特になし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし